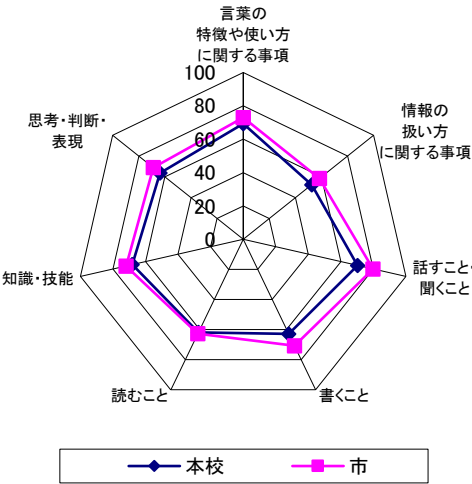


宇都宮市立陽南小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	69.3	73.0	75.5
	情報の扱い方に関する事項	52.5	58.5	59.0
	話すこと・聞くこと	70.3	79.8	75.9
	書くこと	62.9	70.7	71.7
	読むこと	61.8	62.8	62.5
観点別	知識・技能	68.1	72.0	74.4
	思考・判断・表現	63.8	69.0	68.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

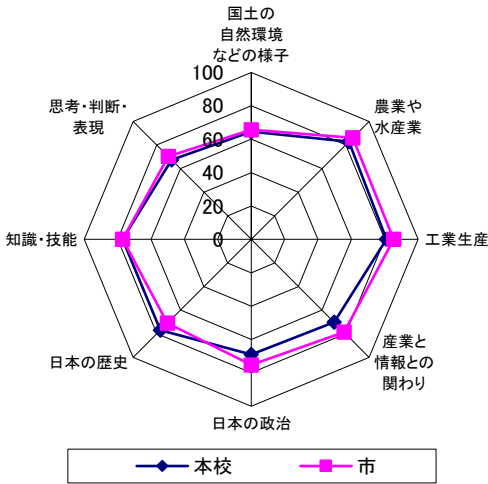
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	●校内正答率は69.3%で、市の平均正答率を3.7ポイント下回った。特に、三字の熟語の構成について理解しているかの設問に対する校内正答率は72.2%で、5.9ポイント下回った。 ○尊敬語について正しく使っているかの設問に対する校内正答率は、48.1%で、市の平均正答率を10.1ポイント上回った。	・授業の中で、プリントを活用しながら熟語の理解を深めていきたい。 ・尊敬語と謙譲語の区別がつかないことがあるので、理解して活用していけるよう、今後も指導を行っていく必要がある。
情報の扱い方に関する事項	●校内正答率は52.5%で、市の平均正答率を6.0ポイント下回った。特に、情報と情報の関係について理解し、目的に応じて、文章を簡単にまとめて書いているかどうかにか課題が見られる。	・国語の学習だけでなく、社会科や総合的な学習の時間などの授業で、資料から読み取った内容を適切に書き表したりするなどの活動を多く設定し、書くことに慣れるようにしていく。
話すこと・聞くこと	●校内正答率は70.3%で、市の平均正答率を9.5ポイント下回った。特に、話の内容を明確にするための話し手の工夫を捉えているかの設問に対する校内正答率は69.6%で、市の平均正答率を19.4ポイント下回った。	・話し手の意図を考えながら、話合いの内容を簡単な文章でまとめることができるよう、国語の授業だけでなく他教科においても、話を聞きながらメモを取るような活動を多く設定する。集中して話を聞いたり、即座に聞いたことを言葉に表したりする活動を繰り返し行っていく。
書くこと	●校内正答率は62.9%で、市の平均正答率を7.8ポイント下回った。特に、段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書いているかに対する校内正答率は53.2%で、市の平均正答率を12.4ポイント下回っている。	・授業中、自分の考えを書く活動を多く設定する。その際、文章の構成の仕方に注意しながら、自分の意見とその理由を明確に書けるよう指導していく。
読むこと	●校内正答率は61.8%で、市の平均正答率を1.0ポイント下回った。大きく下回ったというわけではなかったが、その中でも特に、説明文の文章全体を捉えているかに対する校内正答率は79.7%で、市の平均正答率を4.2ポイント下回った。	・説明文の内容を的確に押さえるために、筆者の考え、その理由や事例、構成の仕方などに注意しながら、説明文の要旨を読み取っていく指導を繰り返し行う。

宇都宮市立陽南小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	64.6	65.7	67.0
	農業や水産業	82.9	86.1	77.5
	工業生産	81.0	85.4	76.7
	産業と情報との関わり	70.3	78.6	69.6
	日本の政治	69.0	75.2	65.8
	日本の歴史	77.1	71.1	69.1
観点別	知識・技能	77.1	77.0	72.8
	思考・判断・表現	67.4	70.3	64.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

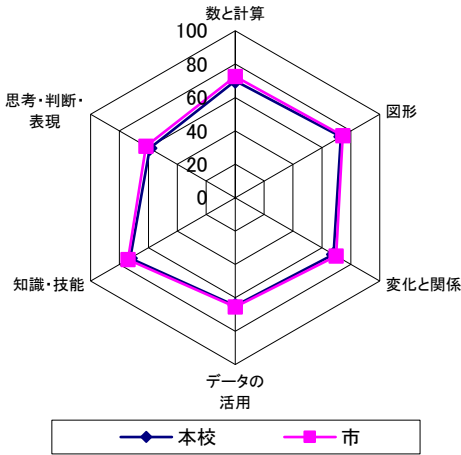
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	●校内正答率は64.6%で、市の平均正答率を1.1ポイント下回った。特に、日本周辺の海洋名について理解しているかについての設問に対する校内正答率は59.5%で、市の平均正答率を10.3ポイント下回った。	・学習時に地図帳で確認するだけでなく、身近なところに地図帳を置いたり、世界地図を掲示したりして、日本の周りの海洋の名称や位置を確認できるようにし、既習事項の知識の定着を図る。
農業や水産業	●校内正答率は82.9%で、市の平均正答率を3.2ポイント下回った。特に、日本の食料生産に関する地図を読み取っているかについての校内正答率は75.9%で、市の平均正答率を10.7ポイント下回った。	・知識・理解だけでなく、資料を見て、何が分かるかを考える活動を授業に多く取り入れていく必要がある。
工業生産	●校内正答率は81.0%で、市の平均正答率を4.4ポイント下回った。特に、電気自動車に着目して、環境に配慮して生産された自動車について考え、ガソリンカーと比較して表現しているかの設問に対する校内正答率は69.6%で、市の平均正答率を8.8ポイント下回った。	・視覚資料などを活用しながら、環境問題にも着目し、地球にやさしい電気自動車が生産されていることに関心をもたせるような指導を行っていく。
産業と情報との関わり	●校内正答率は70.3%で、市の平均正答率を8.3ポイント下回った。特に、放送、新聞などに着目して、情報産業の役割や責任の大きさについて捉え、判断しているかの設問に対する校内正答率は44.3%で、市の平均正答率を21.4ポイント下回った。 ○情報の受け取り方について理解しているかの設問に対する校内正答率は96.2%で、市の平均正答率を4.6ポイント上回った。	・放送局や新聞づくりなど、情報を扱う職業に興味をもち、そこで働く人たちがどのような意図で情報を提供しているのかを授業を通してよく考えられるよう資料を使いながら丁寧に指導を行っていく。 ・普段から、情報の受け取り方の指導を定期的に行っていることによる結果である。引き続き指導を行っていきたい。
日本の政治	●校内正答率は69.0%で、市の平均正答率を6.2ポイント下回った。特に、三審制に着目して、国民の人権を守るための裁判のしくみについて捉え、判断しているかの設問に対する校内正答率は69.6%で、市の平均正答率を7.0ポイント下回った。	・国会・内閣・裁判所の役割と仕組みについて、資料集や視覚資料を活用しながら授業を通して理解を深めていく必要がある。
日本の歴史	○校内正答率は77.1%で、市の平均正答率を6.0ポイント上回った。特に、鎌倉時代の平清盛について理解しているかの設問に対する校内正答率は70.9%で、市の平均を10.9ポイント上回った。 ○御恩と奉公について資料を読み取っているかの設問に対する校内正答率は94.9%で、市の平均正答率を14.9ポイント上回った。	・歴史への関心は高く、知識も豊富である。記述で説明することが苦手なので、学習時に「なぜ」という発問を投げかけ、その問いに対し、自分の言葉で説明するという活動を多く取り入れる。さらに、国語の授業や日常生活の中で、「文章を書く」活動を多く取り入れていく。

宇都宮市立陽南小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	70.0	72.6	71.6
	図形	73.1	74.4	72.0
	変化と関係	68.1	69.8	62.6
	データの活用	64.8	65.5	59.1
観点別	知識・技能	72.6	74.1	68.9
	思考・判断・表現	59.1	61.6	63.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

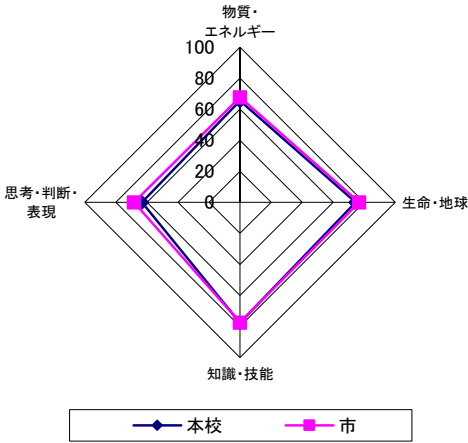
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	●校内正答率は70.0%で、市の平均正答率を2.6ポイント下回った。 ○「分数×分数」や「分数÷分数」では、市の平均を上回っており、基本的な計算の技能が身に付いていると言える。 ●小数の計算では、すべての項目で市の平均を下回っており、課題が見られる。	・習熟度別学習や個別学習において、プリント等を利用して小数の計算の復習を行い、基礎基本の定着を図る。 ・分数の除法の文章問題にあった図や式を選ぶ学習では、なぜそう考えたのか、自分の言葉で説明する学習活動を設定し、思考力・判断力・表現力の向上を目指していく。
図形	●校内正答率は73.1%で、市の平均正答率を1.3ポイント下回った。 ○「台形の面積」「三角形の内角の和」「線対称な図形」において、市の平均を上回った。 ●「正多角形・合同・立体」の設問では、4問中3問が市の平均を下回っており、課題が見られる。	・多角形の内角の和については、三角形がいくつできるかを再度確認し、求められるようにしていく。 ・点対称な図形の性質を再度確認し、その性質を使って作図する活動を取り入れる。 ・図形の作図や、折ったり切ったりする操作活動を多く取り入れ、視覚的・体験的に理解できるような機会を多く設定する。
変化と関係	●校内正答率は68.1%で、市の平均正答率を1.7ポイント下回った。 ●「単位量あたりの大きさ・速さ」においては、すべての設問で市の平均を下回っており、課題が見られる。 ○棒グラフの読み取りでは、市の平均を1.7%上回った。	・平均値や人口密度の求め方を再度確認し、繰り返し問題を解くことで学習内容の定着を図っていく。 ・道のりと速さと時間の関係が理解できるよう、図や数直線を使って考えるような学習活動を設定する。 ・文章問題では、実際の場面を想定させ、図式化するなどして、解決方法を探る練習を繰り返し行う。
データの活用	●校内正答率は64.8%で、市の平均正答率を0.7ポイント下回った。 ○「データの見方」の設問では、3問中2問が市の平均を上回っており、学習内容の定着が見られる。	・度数分布表について、その特徴や見方を再度確認し、問題集やプリント等で復習の機会を設ける。 ・平均値や最頻値、中央値の意味や求め方を自分の言葉で説明するような場を設定し、更なる定着を図る。

宇都宮市立陽南小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	65.5	67.8	64.1
	生命・地球	74.5	76.7	78.3
観点別	知識・技能	77.6	77.4	78.3
	思考・判断・表現	63.2	68.3	66.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	●校内正答率は65.5%で、市の平均正答率を2.3ポイント下回った。 ○「電流のはたらき」では、電磁石を強くする方法についての設問で市の平均正答率を10ポイント上回った。 ●「ふりこのきまり」では、振り子の1往復する時間とおもりの重さの関係を調べる設問や糸を引いていくと振り子の周期がどのように変わるか説明する設問において、市の平均正答率を下回った。	・実験結果に関するその理由や根拠を問う問題については、科学的根拠をもとに説明できるよう、理科の見方・考え方を働かせるような授業を実践していく。 ・考察の際には、自分の言葉で分かりやすく説明できるよう、考察モデルを提示し、それを基に筋道を立てて説明する場を多く設定する。
生命・地球	●校内正答率は74.5%で、市の平均正答率を2.2ポイント下回った。 ○「天気の変化」では、日本付近の天気の変り方や台風接近に関する設問において、市の平均正答率を上回った。 ○「動物のからだのつくりとはたらき」では、食べ物が消化管を通る順番を問う問題や、食べ物はおもに小腸で吸収されて肝臓に蓄えられることを問う問題において、市の平均正答率を3%以上上回った。 ●「植物のつくりとはたらき」や「生物と環境」では、6問中5問で市の平均正答率を下回った。	・天気の変化を推測するような問題に関しては、普段からグループ学習での話し合いなどを通して、自分の考えを深めていくような場を多く設定し、理由や根拠を明らかにした上で、予想を立てさせる。 ・「植物のつくりとはたらき」や「生物と環境」など各単元の復習プリントを活用して、再度、学習内容の理解と定着を図る。

宇都宮市立陽南小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基本的な学習習慣を身に付ける工夫	「陽南授業のきまり」を設定し、基本的な学習習慣を身に付け、集中して授業に取り組む態度を養う。	「授業の始まりは席につく」「先生から指されたら返事をする」「先生の話最後まで聞く」などの基本的な学習習慣について、昨年度に引き続き、肯定割合が市の平均を上回っている項目が多い。
家庭学習の習慣化を図る工夫	3年生以上には、「家庭学習のしおり」を配付し、自主学習の行い方を指導し、家庭学習を習慣化させる。	低学年では、家庭学習の時間が短い傾向にあるが、6年生の「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる」の肯定割合が、市の平均と比べて高くなっており、学年が上がるにつれて、自分で工夫をして家庭学習をしていることが分かる。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

全国学力・学習状況調査、とちぎっ子学習状況調査、学習内容定着度調査の結果を見ると、市の平均正答率を下回る設問が多かったが、学年によっては、昨年度よりも、結果がよくなっている傾向もある。学校マネジメントアンケートの結果を見ても、「進んで学習に取り組むこと」「教職員が分かりやすい授業を行うこと」についての児童の肯定割合は、97%を超えており、昨年度と比べてもよい結果となっている。今後も、習熟度別学習を行ったり、一人一授業を通して、教職員の指導力向上を図ったりし、一人一人が分かる授業の工夫を続けていきたい。